

2010年9月29日

## ” サステイナブル コミュニティ ”

A Way of Life ( 世界の様々な地にみる人と風土の関係 )

サステイナブル コミュニティ研究所 所長  
広島経済大学 教授 川村 健一

(はじめに)

### Awareness

- ・田舎のあぜ道に感じる。

長野県山之内町にみた “あぜ道”

人工と自然、、自然と人工をつなぐ風景を創る

風景に見る A way of Life 人とのかかわり、人の手入れ、自然化する人工とは、

命を得るとは、独自性 Identity、融合 Fusion、

そこに “場” トポスが創生されるプロセスを考える。

車が通るところだけか？場所をつなぐだけか？ それ以外の役割は？

“場” (トポス) を考える。通過だけではなく、そこでゆっくりしたくなる、滞留する。

顔は見えないが、心遣いを感じる。嬉しくなる。座ってコーヒーを飲みたくなる。

即ち、自然と人工の融合。新しい自然か＝トポス＝手入れによる融合化

2つの人工物を考える。田んぼのあぜ道 vs デンバーの19番街通り(車中心)、  
2種類の水路(マリブ CA) 前者は、トポス(人の集まる場所)、片方は通過する場所

3、“場”(トポス)とは、街中の小劇場です。A way of Life を、ゆったりと感じる。

2、今日は、“わざわざ行きたくなるまちを求めて、世界を回ってみましょう”

“世界の “場” トポスを俯瞰してみましょう。まちは、りんごタイプか、葡萄タイプか？

1. トポスには、その町にあった様々なライフスタイルがある。

判るのでなく、感じるのです。そのまちの生活の豊かさを、歴史を、生きる人を

カンボジア～マカオ～モロッコ～ポルトガル～サンタモニカ～ブリスベーン～ノルウェイ 何故 人が来るの？ どこが魅力的なの？ GNH, GNC 知っていますか？ 考えて見ましょう、何故、わざわざ来たくなるのか？ ものを求めて？人に会いに？ 好きだから。何を好きなの？仲間になりたい、コミュニケーションしたい。“もの”でなく“こと” A way of Life を求めて、わざわざ行く(裏原宿、ミシュラン、秋葉原 etc)

とぼすと人の創り出す生態的な魅力を、考える。

Cf. 感性のピラミッド

何か気がつきましたか？

尊敬する宇沢弘文著“社会的共通資本”の巻頭言に“ゆたかな社会とは何か”とある、内容を少し披露しましょう。皆さんには、これは絵になりますか？  
かつて、Walt Disney が、夢見て完成した EPCOT センターとマジックキングダム  
の合体した Diney World の企画を創った B.Rogers プロダクションとの仕事で、議事録  
は、全てアニメーションだった記憶があります。  
ビジュアルでない暮らし方の景色は、伝わらない。

1、A way of Life とは、様々な暮らし方を意味し、国々の普段にあるトポスを見ることにより、感じ取れると思うのです。本日は、その感性を皆でシェアしながら、幾つかの具体性を話し合えればと思う次第です。

(まとめ) まちの中にある人間生態面から見る人の集まる場所を考える。

ビデオ17分

ヒューマンスケールを考える。

歩くことの意義、人とまちの造る劇場、そこここに点在する“トポス”小劇場  
人が出会い、

モロッコに見る暮らしと都市化の動きのスピードの差

変化していないのではない、ゆっくりと1000年かけて変わってきた風景  
スローな時間、変わらずつくり続けること 豊かさは積分量か、微分量か

“豊かさとは、何だろう？”

(少し解説風に)

4、“場”(トポス)を創生するプロセス、人との関わりを考えてみよう、人工だが自然、  
新たなあぜ道、風景を考えてみよう。そこに様々な A Way of Life がある。これは、人の  
営みの必然の結果であり、そうなったのではなく、そうしたのである。そこには、何故か  
を意図した人の営みを見るのである。

2. “心の原風景 アーバン ビレッジ”を、再創生する。

公共と市民の新たな関係性を創成する“市民起業家(ソーシャルアントレプレ  
ナー)”の誕生 誰が、まちを育てるのか? 何故人が来るのか。

デンバー コロラド州

ポートランド オレゴン州

サンタモニカ カリフォルニア州

住む人が求めるもの ライフスタイル(衣、食、住)

美食都市へ(地産地消ではない)、住民=ハイクオリティ=クール 人がわざわざ  
来る(疑似体験)

### 3. カリフォルニアの2つの水路の意味すること

単機能から多機能へ (mixed use) 新しいトポスを創る。

メンテナンスフリー (ものを役所に頼む、資金で解決) から育むへ (皆の水路)

自分の水路、みな水路、町の水路、手入れ (社会資本での解決) へ、

自分たちの共有の”場 (トポス) = コモンズ (風土) の創造

気づき “みなを創り出す、新しい関係性、人工物に与える命とは?”

### 4. ヨーロッパのまちかどから

何故、わざわざ行きたくなるか、心に留まるまちは? ハードではない。

- i) ホスピタリティーの良いまち、庭の無い古いまちの都会人を守る人の喜び (コペンハーゲン)

“心を創る、与えられた、守るべき古いまちでの知恵を生む、誇り (civil heart)

- ii) 古い建物をまもるだけ? 町と一緒に住むだけが、コミュニティではない。(ベルゲン)

“1万ドルではできなかったが、1万人で、行われた (社会資本とは、)”

- iii) ここは、どこ? 人をつなぐ老人ホーム、(スウェーデンの田舎町)

“新しい関係が、生まれる、(こんなコミュニティもある)”

- vi) 食を考える。子供部屋を考える。多様な生活を考える。(モンクスゴア)

“豊かな生活とは、それぞれが所有するから皆で共有するへ サービスの循環 = 経済循環 新しい関係性を考える”

豊かな生活とは、個人が所有するから 皆で共有するへ (コペンハーゲン)

### 5. 気づき (原風景) が、創る。

- i) 青森県むつ市大畑町の公共と住民の挑戦

気づき (共通の風景) の導びく豊かな生活を取り戻す運動

キャッシュで得るよりももっと嬉しい自然からの贈り物

出稼ぎなんかいらんよ、もともと豊かな生活があったんだよ。

「皆の海の畑 = コモンズを再生する」

気づかなければ、町はなくなるのか? 1920年代の町の原風景に気づく

誰が、戻したのか? 何故、人がわざわざ下北の外れに来るのか?

(ビデオ 12分)

もう一度 “GDP” と “GNC (グロス・ナショナル・クール)” と “GNH (グロス・ナショナル・ハピネス)” を考える。

“わざわざ行ってみたいまち、住む人のカッコよさ、笑顔のまち、一緒に過ごしてみたい”